

行き詰まり焦る安倍内閣

戦争法案

15、16日にも衆院で戦争法案採決の構えを強める安倍政権と自民、公明両党。政権幹部の一人は「(採決へ向け)最終調整段階」とも明らかにします。自民党国会対策委員会も来週半ばの「終局」を検討しています。

審議するほどに「早期採決」を強行する姿勢ですが、背景には国民の世論と運動に厳しく追い詰められた状況があります。

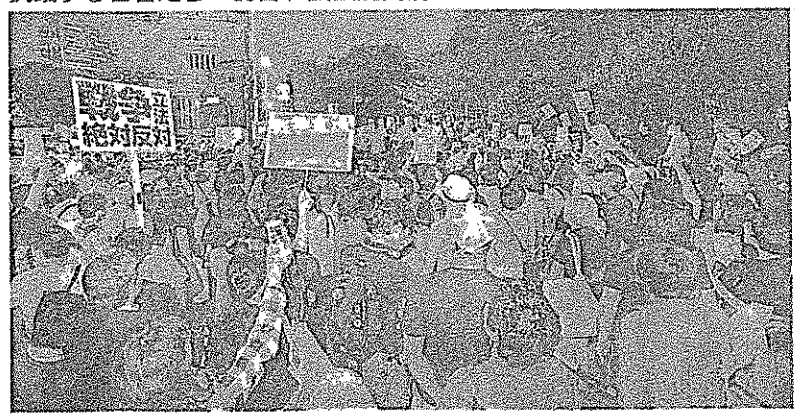
審議をすればするほど「違憲」批判と疑問が拡大し、大臣答弁も混迷を深めています。衆院安保特別委の自民党委員の一人は厳しい表情を見せま

に1回の国会審議で通すのは無理だ。時間をかけても、反対している国民の気持ちは変わらない」と語りま

他方、自民党関係者の一人は、「7月末からお盆前には終わるといっ

もともとの予定はくるっではない。国民には法案の内容がまったたく伝わっていない。法案の内容が詰め切れていない。大臣が説得力ある答弁ができず堂々巡りだ。無理にやれば支持率は崩れる。正直言って本当にきつい」別の議員も「いくらなんでもやりすぎだ。これだけ大きい法案を、一度ど野党の追及に加え、圧

「戦争法案反対」「安倍はやめろ」と抗議する若者たち=10日、国会正門前



倒的多数の憲法学者、元内閣法制局長官、そして元最高裁判事から「違憲」と断じられました。

強行なら批判爆発は必至

法案の正当性は完全に崩壊しています。反対世論は日増しに広がり、10日には国会前で学生らの抗議行動が1万5千人規模で行われるなど、画期的な発展を示しています。世論と運動を背景に野党共闘も前進。結束して横暴な法案採決に反対しています。

大政局の可能性

法案の正当性をますます掘り崩す「力づく」のやり方以外に道がないという、根源的な行き詰まりに直面した状況です。安倍首相と維新の党・橋下徹最高顧問との会食(6月14日)など、法案成立への協力を維新に求めてきたが、思い通りにならない状況もありま

維新の議員の一人は、「15日採決ならとても席にはつけない。橋下氏や大阪系の維新議員も世論を気にして動けないだろう」と述べます。

数を頼みに強行すれば、批判が爆発的に広がることになりま